

小城市水道事業ビジョン(経営戦略) ～概要版～

【 水道を取り巻く環境の変化 】

- 人口減少社会の到来による水道需要の減少、水道料金収入の減少が生じるおそれ
- 水道施設の老朽化に伴う更新需要の増
- 頻発する自然災害など

【 小城市水道事業給水エリア 】

- 小城市全域・三日月町久米の一部（行政区：久米・本告・甘木）

【 小城市水道事業ビジョン策定の目的 】

- 小城市行政区人口は、2012 年(平成 24 年度)をピークに減少傾向にあり、小城市水道事業における給水人口も同様に減少してきている。併せて、水道施設及び管路の老朽化による更新需要増の問題もあり、今後の経営環境が厳しいものとなることが予想される。
- 「小城市水道事業ビジョン」では、現状と課題の整理、将来目標とその実現方策を設定し、将来にわたって持続可能な小城市水道事業の経営基盤を確立することを目指し、上位計画である「第2次小城市総合計画(後期基本計画)」(令和 3 年 12 月)との整合を図りつつ、国が示す「新水道ビジョン」、県が示す「佐賀県水道ビジョン」の内容を踏まえ策定を行った。

【 小城市水道事業ビジョンの計画期間 】

- 小城市水道事業ビジョンの計画期間は、2023 年(令和 5 年度)～2032 年(令和 14 年度)までの 10 年間とする。

計画期間 10年間									
令和 5 年 3	令和 6 年 4	令和 7 年 5	令和 8 年 6	令和 9 年 7	令和 10 年 8	令和 11 年 9	令和 12 年 0	令和 13 年 1	令和 14 年 2

フォローアップ

5年を目途に見直し

【小城市水道事業の現況と課題】

◇ 外部環境の変化

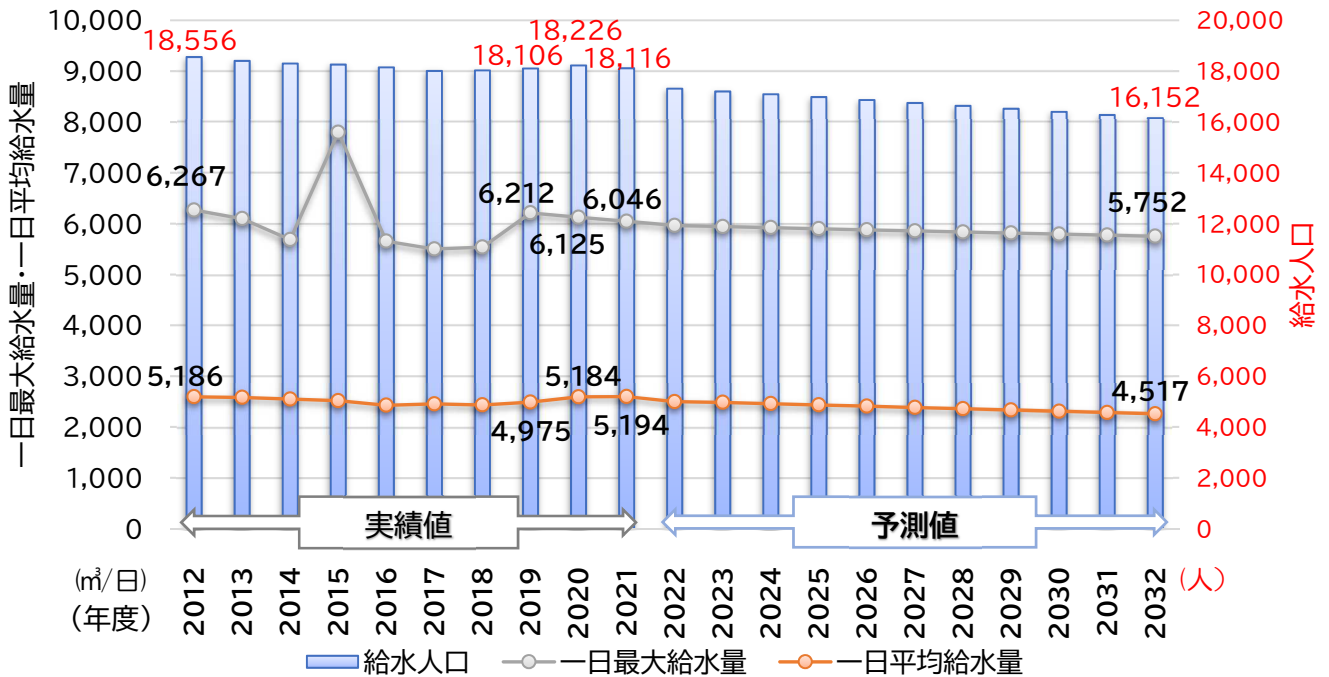


図1 給水人口・一日最大給水量・一日平均給水量の将来推計

- 給水人口予測は、今後も減少傾向となることが予測され、これに伴い営業収益の一つである水道使用料収入の減少が考えられる。
- 給水普及率は、98.2%付近で一定推移しているが、給水人口減少に伴い、今後の普及率上昇は期待出来ないと考えられる。

◇ 内部環境の変化（施設・管路の老朽化）

- 施設は、健全資産が2020年(令和2年度)時点で、施設全体の74%を占めており、耐用年数を超えたものが26%となっている。
- 管路は、健全管路が2020年(令和2年度)時点で、97%を占めており、耐用年数を超えた管路は3%となっている。1993年(平成5年度)から2000年(平成12年度)の8年間で整備を実施したことが要因であるが、当初整備から既に30年程度が経過、将来的な管路の更新時期が約30年後の2050年～2060年に集中することが予想される。
- 今後、施設及び管路における更新・整備事業は、将来の水需要を考慮しながら、長期的な収支計画による更新需要の平準化が必要となる。

◇ 収支比率の状況

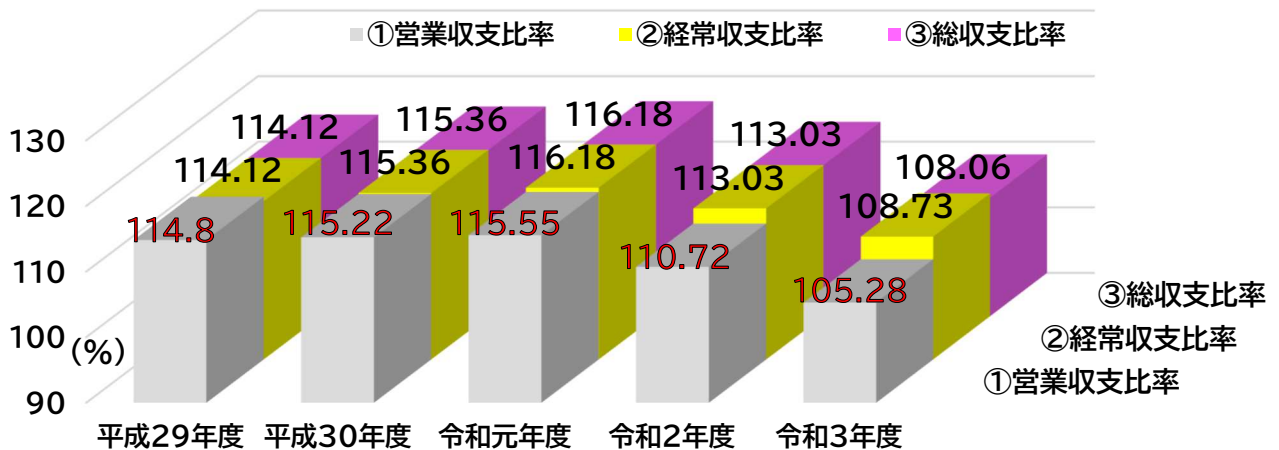


図 2 収支比率の推移

- 過去 5 年における収支比率バランスは、各比率ともに 100%を上回っており、水道事業としては健全な状態にあるといえる。
- 令和 2 年度から各収支比率ともに落ち込んできている。要因として、水道使用料で賄われる給水収益が減少してきていることが考えられる。
- 給水人口の減少に伴う水道使用料収入の減少により、将来的な事業経営が厳しくなることが予想され、安定した水道事業経営を維持していくために、営業費用等の削減が求められる。

① 営業収支比率

営業費用を給水収益等の営業収入で、どの程度賄っているかを示す指標

$$\text{営業収支比率 (\%)} = (\text{営業収益} - \text{受託工事収益}) / (\text{営業費用} - \text{受託工事費用}) \times 100$$

② 経常収支比率

営業費用に加え営業外経費、営業収益に営業外収益までを加え、どの程度賄っているかを示す指標

$$\text{経常収支比率 (\%)} = (\text{営業収益} + \text{営業外収益}) / (\text{営業費用} + \text{営業外費用}) \times 100$$

③ 総収支比率

総収入に対する総費用の割合で、収益性を示す指標

$$\text{総収支比率 (\%)} = \text{総収益} / \text{総費用} \times 100$$

※ ①・②・③ 共に 100%以上が黒字

◀ 小城市水道事業の将来像と基本目標 ▶

◇ 第2次小城市総合計画(後期基本計画)との整合性

表1 小城市水道事業のSDGsを推進する取り組み

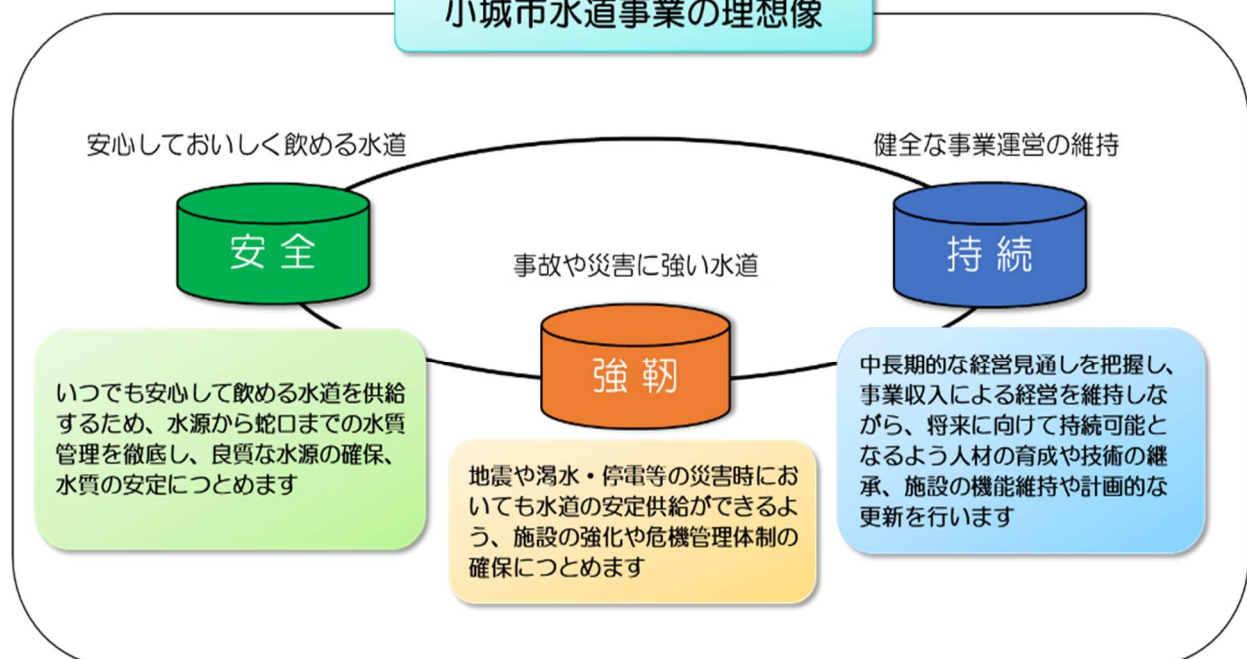
施策名	施策 1-3 水道水の安全・安定供給			
	基本事業	<p>① 水道施設の適正管理・整備 老朽化水道施設の長寿命化及び更新を行うため、長期的な計画を策定し、整備を行っていきます。また、水道施設の定期的な点検及び整備等により、適切な管理を行います。</p> <p>② 持続可能な安定経営 持続可能な安定経営のために、水道施設の整備計画により今後発生する更新費用などを算定し、経営戦略を策定します。</p> <p>③ 水道水の水質管理 水道水は、水源から宅内の水栓までの水質の管理が必要であるため、水道施設の管理及び水質検査を実施し、安全な水道水の供給を行います。</p>		
		<p>「第2次小城市総合計画(後期基本計画)」(令和3年12月)より</p>		

小城市水道事業ビジョン（経営戦略）

基本理念

未来までとどけたい安心でおいしいおぎの水

小城市水道事業の理想像



【 経営戦略（ 投資・財政計画 ） 】

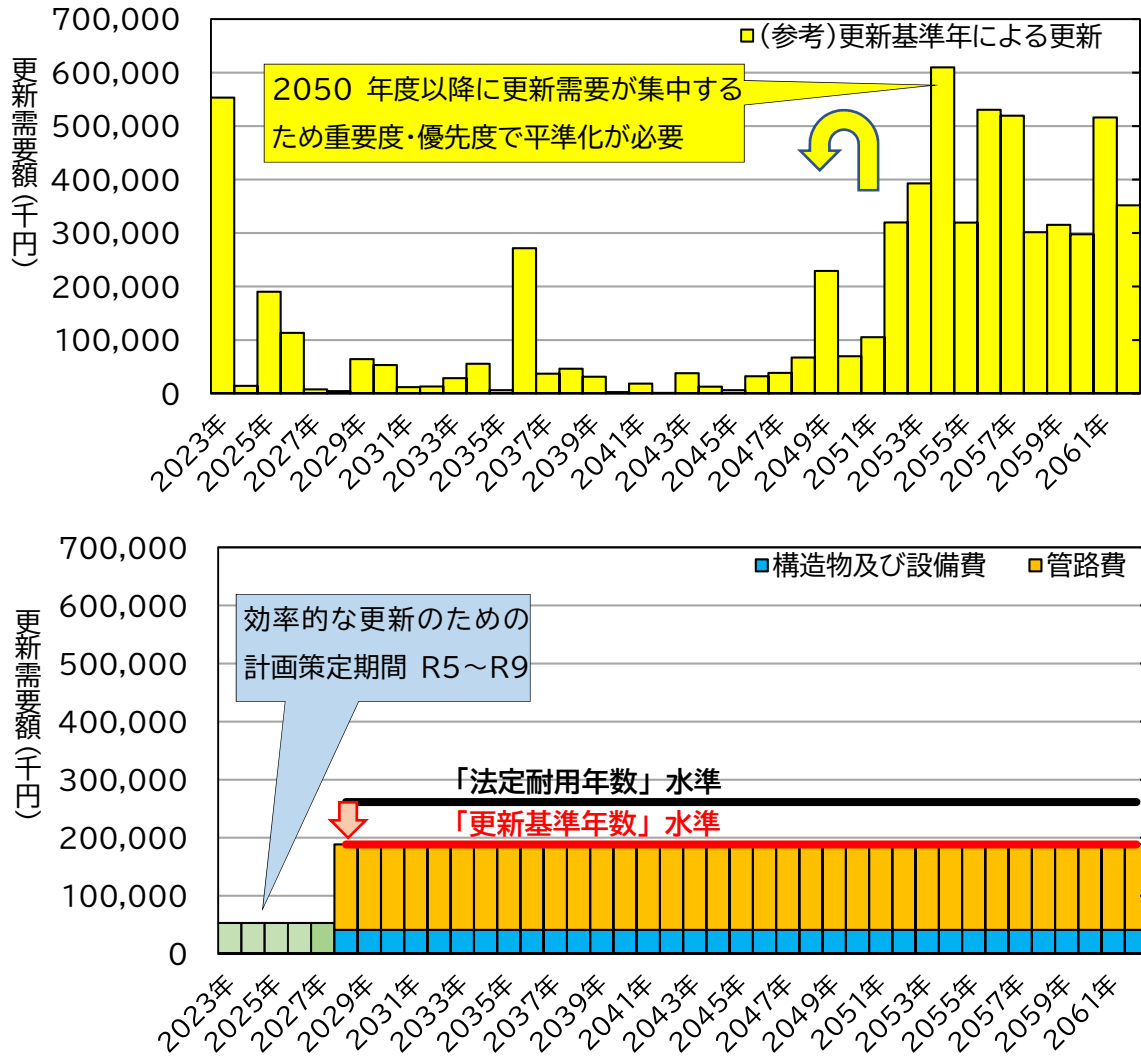


図 3 平準化の有無による更新需要の長期見通し

【 2023 年(令和 5 年度) ～ 2027 年(令和 9 年度) 】

- 施設： 機械・電気設備を中心に点検整備を行い、長寿命化を図る。
- 管路： 漏水多発箇所の整備を重点的に実施。
- 2028 年(令和 10 年度)からの更新・整備事業は、重要度・優先度を考慮しながら、事業費の平準化を行い適正規模で実施するための計画策定期間として位置付ける。

【 2028 年(令和 10 年度) ～ 2032 年(令和 14 年度) 】

- 策定した計画により、施設整備並びに老朽管更新を実施。